
Halo2.5:Beauty and the Beast

Sierra-312

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Hal o 2 . 5 : B e a u t y a n d t h e B e a s t

【Nコード】

N 5 3 7 2 Z

【作者名】

S i e r r a - 3 1 2

【あらすじ】

『大いなる旅立ち』(The Great Journey)の真実を知ったエリート族 (Elites) は、ゼル・ヴァダム (The l · V a d a m) とシップマスター アルタス・ヴァダム (S h i p m a s t e r R t a s V a d u m) を旗頭にコヴナント (C o v e n a n t) を離反した。

そして、ゼル・ヴァダム (The l · V a d a m) は人類 (H u m a n s) と手を組む事を決断する。

それによりエリート族 (E l i t e s) が一人である強化部隊所

属のネモ・ヌルヴェ（Nemo Nullive）は一人の女性兵士
と出会い、様々な戦場を駆け抜ける事となった。

ビギナー (Easy) (前書き)

H a l o 2 が終わり、H a l o 3 のはじまる寸前が舞台となります。
H a l o 3 : O D S T も若干絡む形となっていますが、過去である
H a l o : W a r s とH a l o : R e a c h が絡む事は在りません。
また、アメコミ及びアニメなどの内容も絡みません。

使用している資料は、H a l o : R e a c h 予約特典で付いてくる
資料とW i k i p e d i a 等です。

H a l o 3 をプレイし直しながら書いている為、更新は不定期となります。

ビギナー (Easy)

エリート族がコヴナントから離れて数ヶ月。

ボクが人間の部隊に入ってから2〜3週間くらい経つ。ゼル・ヴァダム (Theel・Vadam) 様が人類との一時的軍事同盟を希望したのが切欠となって、ボクたちエリート族は人間の部隊へと配属されていった。

配属されていないのは、アールタス・ヴァダム (Rtas Vadam) 様率いる Shadow of Intent とボクの数少ない友達くらいなものだろう。

友達のヌ・ソ・スラオム (Nitho Sraom) とウスゼ・タハム (Usze Taham) は、ゼル・ヴァダム (Theel・Vadam) 様と行動を共にしている。3人での単独行動から人間の海兵隊という部隊とも連携を取っているそう。

それに比べ、ボクは戦場で戦える兵士が減ってきているという理由で、とある兵士とペアで行動する事になった。

なんでも人間側の特殊部隊 Orbital Drop Shock Troopers (オービタル・ドロップ・ショック・トゥルーパー) 所属だった女性で、所属部隊唯一の生き残りだそう。

Orbital Drop Shock Troopers (オービタル・ドロップ・ショック・トゥルーパー) というのは、人間の現主力である海兵隊が活動を見込めない場所に投入される部隊らしい。

個人用降下ポッドで宇宙艦から直接目標地点に落下して強襲を行うエリート中のエリートが揃った部隊だとか……色々改造の施されているであろうスパルタン (Spartan) に比べ、純粹に鍛えた末に到達できる最高峰の部隊だとアールタス・ヴァダム (Rtas Vadam) 様が言っていた。

敵地の背後、あるいはど真ん中に降下して戦局を打開させるための任に就くなんて、Shadow of Intentシャドウ・オブ・インテントと全く同じじゃないかと思ってしまった。

「ネモ・ヌルヴェ(Nemo Nulve)、何しているの？ さっさと行くわよ」

「うん。いま行くよ。それと、ボクを呼ぶ時はネモで良いって言ってるじゃないか」

「地球ではね。ネモっていうのは『誰でもない』って意味なの」

「ボクはエリート族だからそういうのは関係ないと思うけど？」

「私が嫌だからよ」

「うん。それなら、ヌルとかはどうかな？」

「ヌルも『ないこと』っていう意味合いよ」

「……。ボクの名前って人間から見れば無い無い尽くしなんだね」

「そうね。だからヴェルとかどうかしら？ ヌルヴェからルヴェを取って置き換えてヴェルね」

「うん、ボクはそれで構わないよ」

「決まりね。それじゃ、ヴェル行くわよ」

そう言つてBR55HB バトルライフル(Battle Rifle)を構え、ドンドン進んで行くのが話題に挙げた女性兵士テレサ=リュック・ピカード(Theresa-Luc Piccard)だ。

周りにはあまり知られていないけれど、一応ボクの恋人だ。ペアを組んでから1週間、彼女が勇敢にブルート族、ハンター族を屠る姿を見ていたら惚れてしまった。他の同胞(Elites)が言うには一目惚れというヤツらしい。

思い立ったが吉で告白した結果、いまに至る。

あ、ちなみにボクの装備は黒いコンバトアーマー(Combat Armor)だ。海兵隊の人が見つかり難い様にと迷彩色にし

てくれたのでステルス状態にならなくても森や市街地などでは見づかり難い。

ボクは元々ステルス兵なので、このコンバットアーマー(Combat Armor)にはアクティブ・カモフラージュ(Active Cover)が内蔵されている。奇襲攻撃や狙撃が得意な特化兵だ。

たまに敵の後ろに近寄って、背後からエナジーソード(Energy Sword)で突き刺す事もするけど、ボク達ステルス兵の装備する黒いコンバットアーマー(Combat Armor)は、特殊部隊が装備する青いコンバットアーマー(Combat Armor)に比べると耐久力が低く、シールドも薄い。もちろん、一般兵に比べると随分と硬いんだけど……。

それでもやはり、ブルートの攻撃を2発耐えるくらいが限界だろう。

それにいまは、ペアで行動していてステルス兵としての本領を發揮する事はできない。手持ちの武器だって海兵隊からもらったSR S99D-S2 オートマチック・スナイパーライフル(AM Sniper Rifle)と愛用のカービン(Carbine)だから、隠れて狙撃くらいしか出来ない。

でもやっぱり、ペアである以上はテレサ(Theresa)と共に行動するので狙撃も難しい。

幸いカービン(Carbine)は全距離対応できる武器だし、敵を倒せば弾倉も手に入るから困る事はないけれど。

「それにしても、大いなる旅立ち(The Great Journey)だっけ? その真実が知的生命体根絶だって分かったのに、なんで他のコヴナント(Covenant)達はいまだにヘイロー(Halo)を求めるのかしら?」

前に行くテレサ(Theresa)が不思議そうな口調で聞いて

来た。

ボクもそれに関しては気になっていた。正直、プロフェツ族 (Prophets) に関しては気に喰わないけど、コヴナント (Covenant) を仕切るだけ在于ってその智的能力はエリート族 (Elites) を上回っている。

だからこそ、脳のないブルート族 (Brutes) すらも巧みに操る事が出来るのだらう。まあ、ボクたちブルート族 (Brutes) からしてみれば、他種族を完全に見下し、傲慢の塊でしかない脳なしなんて駆逐すべきだと思う。

心情を少し挟んでしまっただけで、プロフェツ族 (Prophets) は頭だけは良い筈だ。一体何を考えているのかボクには分からない。

だからこそ、現状を見て妥当だと思える推測とほんの少しの本音を口にした。

「きつと、ボクたちエリート族 (Elites) の事をプロフェツ族 (Prophets) が裏切り者として見ているから、ボクたちの言っている事も真実ではないとされているんだらうね。でも、たとえボクたちの事が信じられなかったとしても知的生命体の敵であるフラッド (The Flood) の根絶よりも先にヘイロー (Halo) を求める理由がボクには分からないよ。共同戦線を張って共通の敵であるフラッド (The Flood) を駆逐するのが先だと思っただけだね」

「あれじゃないかしら？ 大いなる旅立ち (The Great Journey) が成功すればフラッド (The Flood) が消えるって考えてるんじゃないか。半分アタってるけど半分ハズレね。私たち知的生命体がいなくなるから、知的生命体を宿主にしなければ増える事ができないフラッド (The Flood) は次第にその数を減らしてゆく」

「フラッド (The Flood) の数が減る前にボクたち全員

が絶滅する事が前提条件。フォアランナー (Forerunner) も本当に追い詰められていたみたいだね」

フォアランナー (Forerunner)。

遙か昔、人類 (Humans) よりもコヴナント (Covenant) よりも優れた文明を築いていた種族。人間の神話に喩えるのならば、黄金の時代を生きた生命と言っても変わりはないと思う。そのフォアランナー (Forerunner) がフラッド (The Flood) と呼ばれる謎の寄生生物と戦いを始めるのが白銀の時代。なんらかの理由でフォアランナー (Forerunner) が滅び、フラッド (The Flood) が封印されるのが青銅の時代。人類 (Humans) とコヴナント (Covenant) が戦争をはじめ、まだ人類側に多くのスパルタン (Spartan) が存在し、戦いに均衡が保たれていたのが英雄の時代。コヴナント (Covenant) が内部から瓦解し、ボクたちエリート族 (Elites) が離反、大いなる旅立ち (The Great Journey) の真実が露になり、人類 (Humans) とエリート族 (Elites) の連合対コヴナント (Covenant) の戦争が鉄の時代と言えらと思う。

この鉄の時代の先になにがあるのか。そもそも、ボクやテレサ (Theresa) が生きている間に戦争が終わるのかも分からない。プロフェツ族 (Prophets) の頂点であり、コヴナント (Covenant) の頂点でもある真実の預言者 (The Prophet of Truth) が言っていた言葉通り、フォアランナー (Forerunner) が全知全能で在ったとするのなら、何を望んでいたのだろうか？

そして、そのフォアランナー (Forerunner) すらも追い詰めたフラッド (The Flood) という寄生生物。

ボクたちは本当に勝てるのか？

「そろそろ複数のブルート（Brutes）が目撃された場所につくわね」

「数を確認して、狙撃で少し減らすよ。中隊クラスならそこまですぐ一旦退こう」

「そうね。小隊クラスならグラント（Grunts）、ジャツカル（Jackals）にブルート（Brutes）が2匹程でしょうし、やれそうね」

「うん」

ボクはフォアランナー（Forerunner）とフラッド（The Flood）という脅威。そして、現状のコヴナント（Covenant）に関する思考を一時停止。

アクティブ・カモフラージュ（Active Camouflage）を起動し、岩陰から半身だけを出してSRSG9D-S2 オートマチック・スナイパーライフル（AM Sniper Rifle）のスコープを覗いた。

複数の降下用ポッドが多数、大破しているファントム（Phantom）が2機、元々は中隊クラスの戦力を持っていた事が伺える。恐らく、ニュー・モンバサにある遺跡へと向かう途中、宇宙空間でアールタス・ヴァダム（Rtas Vadam）様率いるShadow of Intent^{シャドウ・オブ・インテント}に迎撃されたのだろう。

降下用ポッドのほぼ全てが全壊しているし、生き残っている兵の数も非常に少ないのがその証拠だ。

「グラント（Grunts）が12、ジャツカル（Jackals）2、ブルート（Brutes）が1だね。他にもグラント（Grunts）の遺体が20、ジャツカル（Jackals）の遺体が8、ブルート（Brutes）の遺体が5、これだけ確認できるからもう殆ど死に体だね」

「宇宙艦の撃ち漏らしね。数も少ないし、狙撃でブルート（Bru

tes)を殺つて残りも掃討しちゃいましょう」
「うん」

SRS99D-S2 オートマチック・スナイパーライフル(A
M Sniper Rifle)の照準をリーダー格であるブル
ト(Bruties)に向ける。

手にはグラビティハンマー(Gravity Hammer)、
ヘルメットは壊れてしまったのか被つてはいない。アーマーも所々
破損しているところを見るにエネルギーシールドで防護はされてい
ないみたいだ。

ボクは照準をブルト(Bruties)の頭部に合わせる。
そして、動きが止まった時に引き金を引いた。

ドンツと鈍い小さな音が聞え、決して軽くない衝撃が腕を襲う。
放たれた弾丸はブルト(Bruties)のこめかみを貫通する。

さすがのブルト(Bruties)も頭部を弾丸が貫通すれば生
きてはいない。ブルト(Bruties)はコヴナント(Cove
nant)に所属する種族の中で最も頑丈な頑強な肉体を持つてい
る。ただその脳までもが筋肉で出来ている生物だ。

「killね。ココからじゃ届かないから移動するわ。 援護をお
願い」
「うん、わかった」

テレサ(Theresa)は隠れていた岩陰から飛び出し、音と
気配を消しながら敵に近づいて行く。

敵の方はリーダーであるブルト(Bruties)が即死した事
で混乱していた。特に知能の低いグラント(Grunts)は武器
を捨てて散り散りに逃げ始めている。

それを何とかジャツカル(Jackals)がバラけないように
指示を出している感じた。

ボクは指示を出しているジャツカル（Jackals）の1匹に照準を合わせ、引き金を引く。ジャツカル（Jackals）と言えば、非常に華奢な体をしているが、それを補う程に優れた視力と聴力を有している。狙撃手としても偵察兵としてもコヴナント（Covenant）では重宝されていた。

標的にしたジャツカル（Jackals）の頭が吹き飛んで行く。それほどまでにジャツカル（Jackals）の身体は弱いのだろ
う。

吹き飛ばされたジャツカル（Jackals）を見たグラント（Grants）たちは、残ったもう一方のジャツカル（Jackals）の指示を無視して逃げ始めた。

そして、ある程度の距離まで近づいたテレサ（Theresa）が持つBR55HB バトルライフル（Battle Rifle）で一掃されて行った。

『ジャツカル（Jackals）が逃げたわ。そつちで狙撃できるかしら？』

テレサ（Theresa）から通信が来た。どうも残ったジャツカル（Jackals）はその聴力でテレサ（Theresa）の接近を察知。そして、グラント（Grants）を囮にする形にして逃げ出したみたいだ。

『ボクがいるって分かってるハズなのにね。もう逃げる事しか頭がないみたい』

『そう、それなら一撃で送ってあげなさいよ？』

『うん、わかってる。これなら痛みを感じないよ』

必死に走って逃げるジャツカル（Jackals）の背に一度照準を合わせ、若干上に向ける。そして、予想される逃避先に照準を

固定する。

走る速度と弾丸の速度を考えながら、引き金を引く。

スコープから見えるジャツカル（Jackals）の頭が綺麗に吹き飛んだ。どうやら上手く行ったみたいだ。

『ビューティフォー。さすがね』

『SRS99D-S2 オートマチック・スナイパーライフル（AM Sniper Rifle）はビームライフル（Particle Beam Rifle）と使用方法がほとんど同じだからね。使い勝手が良いよね。それと、なんだかちよつと発音が独特？』

『歴戦の英雄、マクミラン大尉が言った名台詞の一つよ。後もう一つはステンバリーというのが在るわ』

『それって確か……。開発部の人が見つけた昔のゲームの登場人物だよ？』

『あー、あー、聞えないわ。さつさと撤退するわよ』

テレサ（Theresa）はそそくさと退却を始める。

こうなってしまうってはもう何を言っても意味はないだろう。まだ少しの時間だけしか一緒になっただけはないが、何となく彼女の性格は分かった。

戦争中なのに戦争ゲームやっちゃうくらいFPS好き。

常時愛用のBR55HB バトルライフル（Battle Rifle）を手入れしたりしているし、ボクがお風呂に入るように言っても銃やアーマーの手入れを優先しちゃう。

24時間の内、半分くらいを作戦か訓練で費やし、腕っ節もこちらの海兵隊よりも強い。

その為、生まれて26年間一度も恋人とかは出来た事はないらしい。あと、処女っていうと半殺しにされるらしい。

作戦にも出ていないはずなのに重傷になって医療班に運ばれていた海兵隊の一人が言っていた。

「ほら、何してんの！ さっさと帰るわよ。他のエリート（Eliites）たちはもつとキビキビ動くじゃない」

「え？ あ、うん。ほら、ボクって元々ノンビリした性格だからね」

「……。ま、ソコが良いんだけどね」

「？ 何か言った？」

「なんでもないわよ。帰ったら久々に水浴びがしたいわ。確かホームの中に滝が在ったわよね？」

「珍しいね。確かにあそこならホーム内だし、遮蔽物だらけだから狙撃される心配もないね」

「男共が覗かない様に任せたわよ。ヴェル」

「うん、任せて」

戦争中とは思えない会話をしながら、ボクたちはホームキャンプへと戻った。

ホームキャンプまでの帰還は3日ぶりくらいなので、戻った時に海兵隊の皆々様にからかわれて色々と恥かしい思いをする事になったけど……。

まあ、戦争中の一次の和みとしては良いよね。

ビギナー (Easy) (後書き)

設定ミスなどが在りましたら教えてください。

また、人類側が使用する武器の口径などが詳しく記載されていない為、ぼかした表現をして行きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5372z/>

Halo2.5:Beauty and the Beast

2011年12月18日01時47分発行